

「人工知能活用による革新的リモート技術開発」における
データマネジメント基本方針

「人工知能活用による革新的リモート技術開発」（以下「本プロジェクト」という。）の目的の達成及び本プロジェクトで取得又は収集した研究開発データの効果的な利活用促進のため、本プロジェクトにおいては、以下のデータマネジメントを行うことを原則とする。

本方針に記載のない事項については、本プロジェクトの目的を踏まえ、本プロジェクト参加者間の合意により必要に応じて定めるものとする。

本プロジェクト参加者は、本方針に従い、特段の事情がない限りプロジェクト開始（委託契約書の締結）までに、研究開発データの取扱いについて合意した上で、データマネジメントプランを作成するものとする。

なお、本プロジェクト参加者間でのデータの取扱いについての合意書（以下「データ合意書」という。）及びデータマネジメントプランの作成に当たっては、経済産業省の「委託研究開発における知的財産マネジメントに関する運用ガイドライン（別冊）委託研究開発におけるデータマネジメントに関する運用ガイドライン」（平成29年12月）を参考にする。

1. 本方針で用いる用語の定義

（1）「本プロジェクト」及び「本プロジェクト参加者」

「本プロジェクト」とは「人工知能活用による革新的リモート技術開発」をいい、「本プロジェクト参加者」とは、本プロジェクトの参加者をいう。

（2）「テーマ」及び「テーマ参加者」

「テーマ」とは、本プロジェクト内の研究開発テーマであって、データの取扱いに関する合意書（データ合意書）を作成する研究開発テーマの一つを指し、「テーマ参加者」とは、当該テーマの参加者をいう。

（3）研究開発データ

「研究開発データ」とは、研究開発で取得又は収集した電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。）をいう。

（４）自主管理データ

「自主管理データ」とは、テーマ参加者が自主的に管理する研究開発データをいう。

（５）非管理データ

「非管理データ」とは、自主管理データ以外の特に管理を要しない研究開発データをいう。

２．本研究開発における研究開発データの基本的事項

（１）自主管理データ

自主管理データについては、一義的には取得又は収集したテーマ参加者が管理方針を決定すべきものであるが、種々の目的や用途のためにテーマ参加者自らによる利活用又は他者に対する提供等を促進するよう努める。

（２）データに係る契約

本プロジェクトは人工知能に係る技術開発であることを鑑みて、本プロジェクトにおけるデータの利用、加工、譲渡その他取扱いに関する契約については、本プロジェクト参加者は、経済産業省の「AI・データの利用に関する契約ガイドライン 1.1 版」（2019年12月）が示す契約条項例や条項作成時の考慮要素等を検討し、合理的な契約締結を行うこととする。

３．NEDOと受託者とが約する事項

（１）データカタログに掲載する索引情報の報告

テーマ参加者以外にも提供・利活用が可能な自主管理データについては、その索引情報（以下「メタデータ」という。）をNEDOに報告し、これをNEDOが作成したデータカタログに掲載することに同意するものとする。

（２）データマネジメントプランの提出

受託者は、テーマ参加者以外にも提供・利活用が可能な自主管理データについては、データマネジメントプランをNEDOに提出する。

また、受託者は、テーマ参加者間のみで共有・利活用可能な自主管理データ、他の本プロジェクト参加者やテーマ参加者以外と共有・利活用しない自主管理データについては、研究開発データの名称、研究開発データの管理者、研究開発データの説明及び秘匿する理由を記載した簡略型データマネジメントプランをNEDOに提出する。

データマネジメントプラン及び簡略型データマネジメントプランは、特段の事情がない限り本プロジェクト開始前までに、NEDOに提出する。ただし、本プロジェクト開始前にデータの取得又は収集を想定することが困難な場合は、データの取得又は収集の想定ができた時点で、データマネジメントプラン及び簡略型データマネジメントプランのNEDOへの提出を行うこととする。

(3) データマネジメントプランの追加提出・修正

受託者は、本プロジェクト開始後に、想定し得なかったデータが取得又は収集される場合は、必要に応じて、本プロジェクト期間中であってもデータマネジメントプラン及び簡略型データマネジメントプランを追加又は修正し、NEDOに提出する。

(4) 受託者は、データマネジメントプラン、簡略型データマネジメントプラン及びメタデータをNEDOが別途指定する様式によりNEDOに提出する。

4. テーマ参加者間のデータ合意書で定める事項

(1) データマネジメントの体制の整備

本方針に従い、自主管理データのマネジメントを適切に行うため、知財運営委員会にデータマネジメント機能を付与する。

知財運営委員会は、管理すべき研究開発データの特定、研究開発データの形式の決定、データ提供、秘匿化の方針決定及び研究開発データの利用許諾条件等の調整等を行う。

(2) 本プロジェクトの研究開発データの第三者への開示の事前承認¹

本プロジェクトの実施によって取得又は収集された研究開発データのうち、自主管理データについては、知財運営委員会の承認を得ることなく、テーマ参加者以外の第三者に対して開示し又は漏洩してはならないものとする。ただし、知財運営委員会の承認が得られた研究開発データについては、広範な利活用を促進するよう努めるものとする。

(3) データマネジメントプランの作成及び研究開発データの利用許諾

テーマ参加者は、データマネジメントプランを作成してNEDO及び知財運営委員会に提出し、データマネジメントプランに従って研究開発データの管理を実施する。また、研究開発の進展等に伴い、データマネジメントプランを適宜修正してNEDO及び知財運営委員会に提出する。

¹ 個人情報を含む研究開発データについては、他者に提供する場合には、本人の同意を得ることや特定の個人を識別できないように加工することが必要となるが、本プロジェクト参加者は、当該加工に際し、法令及びガイドライン等を十分に考慮する必要があることに留意する。また、自主管理データを管理するに当たり、不正競争防止法における保護を受けるためには、その自主管理データが、不正競争防止法上の「営業秘密」として管理されていることが必要である点に留意する。

研究開発データの利用許諾は、データマネジメントプランに従って行う。研究開発データの範囲、利用許諾料その他の事項について当事者間の協議が難航し、本プロジェクトの成果の事業化に支障を及ぼすおそれがある場合は、知財運営委員会において調整し、当事者間で合理的な解決を図るものとする。

(4) 本プロジェクト期間中の研究開発又は本プロジェクトの成果の事業化のための研究開発データの利用許諾

テーマ参加者は、本プロジェクト期間中における当該テーマ内での他のテーマ参加者及び他の本プロジェクト参加者による、本プロジェクト内での研究開発活動に対して、又は本プロジェクトの成果を事業化するための活動に対して、必要な範囲で、無償又は合理的な利用料で利用許諾することを原則とする。(自主管理データにおいて、本プロジェクト参加者間で有償により利用許諾すること等の別段の取決めがある場合はこの限りでない。)

ただし、当該研究開発データを利用許諾することにより、利用許諾を行った者の既存又は将来の事業活動に影響を及ぼすことが予想される場合には、利用許諾を拒否することができるものとする。このほか、例外として認める範囲（特にテーマ参加者が本プロジェクトの実施のために持ち込んだ研究開発データ）については、テーマ参加者間の合意に基づき必要な範囲で明確化するものとする。

研究開発データの範囲、利用許諾料その他の事項について当事者間の協議が難航し、本プロジェクトの成果の事業化に支障を及ぼすおそれがある場合は、知財運営委員会において調整し、当事者間で合理的な解決を図るものとする。

5. テーマ参加者がデータマネジメントプランに記載する事項

以下の事項につき、当該テーマ内での他のテーマ参加者とよく協議を行った上で記載すること。特に(8)に関しては、研究開発データの円滑な提供に向けた取組として、当該研究開発データと、当該テーマで他のテーマ参加者が開発したソフトウェアや当該テーマの他のテーマ参加者が取得又は収集した研究開発データと併せて利用許諾される可能性があれば記載すること。

- (1) 研究開発データの名称
- (2) 研究開発データを取得又は収集した者
- (3) 研究開発データの管理者
- (4) データの分類（自主管理データと記載）
- (5) 研究開発データの説明
- (6) 研究開発データの想定利活用用途
- (7) 研究開発データの取得又は収集方法
- (8) 研究開発データの利活用・提供方針
- (9) (他者に提供する場合) 円滑な提供に向けた取組

- (秘匿して自ら利活用する場合) 秘匿期間、秘匿理由
- (10) リポジトリ (本プロジェクト期間中、終了後)
 - (11) 想定データ量
 - (12) 加工方針 (ファイル形式、メタデータに関する事項を含む。)
 - (13) その他 (サンプルデータやデータ提供サイトのURL)

(改訂履歴)

2021年3月 第1版